

# 紙すき、子ら「面白い」

和紙研究の故寿岳文章さんちなみ企画

## 向日庵メンバーが指導

市文化資料館



「簀桁」と呼ばれる木枠にひしゃくで原料液を流し込む子どもたち(向日市寺戸町・市文化資料館)

向日市文化資料館は25日、児童対象の紙すき体験を同資料館で開いた。英文学者の故寿岳文章さんが同市の居宅「向日庵」で和紙研究を深めたことにちなんだ初の企画。保存活動に取り組むNPO法人「向日庵」のメンバーが児童に木を削って紙をつくる本格的な作業などを指導した。

紙すき体験は、近代和風建築として高く評価される建物が市内に現存していることを知ってもらいたいと実施し、市内の小学生20人が参加した。同法人理事で紙すき師の田村正君(9)＝同市上植野町＝は「こうやって紙はできてるんだと思っただけで大変だったけれど面白くて疲れなかつた」と笑顔を見せた。このほか、同法人正会員の原田紗知さん(34)による和紙の染み染め体験もあった。(大西成美)

封筒の形を仕上げた。26日はポストカード作りなどに挑戦する。向日小4年の川端心

事だ。子どもたちは、コウゾを削ってほぐすなどした原料液をひしゃくで「簀桁」と呼ばれる木枠に流し込み、

田村さんは「紙すき師を志し、文献をあさり始めたときに出てきた人物の1人が和紙を

研究していた寿岳さんだった。向日庵がある地元の子どもたちに手すき和紙について伝えることで恩返しになれば」と話した。